

2017/10/16

柏の景気情報（平成29年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成29年9月分）

○ 調査期間 : 平成29年9月25日 ~ 平成29年9月29日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	20	45.5%
製造	33	13	39.4%
卸・小売	43	22	51.2%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年9月の調査結果のポイント】

《業況DIはほとんどの業種で改善。先行きは懸念材料を払拭できず横ばいの見通し》

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が12.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業△26.6(同▲13.3)、製造業△15.3(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲15.0(同▲2.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.4(同▲42.8)である。

【建設業】からは、「必要最低限の工事へ移行している感じがする。また、高齢化に伴い自宅の処分に関する相談が増加中。その中で痴呆症発症により処分できない物件が多発中。その対策として家族信託が注目されつつある。」(一般土木建築工事業)、「工事の受注は増加したが、予算は減少している。品質保持を考えると一定の積算額を確保したい」(電気工事業)、「衆院選の動向が気になるが、畳屋としてはイ草農家が大打撃をうけない政党が政権を任zてくれればいいなと願う。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「医療向け建材は停滞ムード。」(特殊産業用機械)、「今世紀になっての経済発展は、人的労働の評価を低下し身を粉にして働けど、生き残れるもの・生き残れないものの分離が極端になって来ているように思える。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「秋冬物の出足は順調、ただしシーズン初めは高額商品の売れ行きが良いが、単価は下がっている。特に2万円を越すとあきらかに悪い」(婦人・子供服小売業)、「昨年は駅前百貨店の閉店セールがあり売上減少が続いた事もあり、今年9月は全体的に昨年を上回る売上となった状況。在庫を抑え商品回転を高め、経費削減を徹底することを日々努力している。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「柏の葉キャンパス駅西口のららぽーと&大型SC(ヨークマート、ケーヨーD2、マツモトキヨシ、ダイソー)と同じような形態で、流山おおたかの森SC先の流山おおたかの森駅西口に大型SC(ヤオコー、マツモトキヨシ、ダイソー、フードコート)がオープン、そして西口に近日中にホームセンター(セキチュー)オープン予定。セール&セールで客足が左右に流れて、真ん中に位置する当店は客足・売上ともかなり厳しい。」(その他の飲食料品小売業)、「夏を過ぎて売買の方も動きが出てきている。長期間空室にしていた物件や相続を受けた物件等資産処分、不動産の現金化等を希望している方が増えている。」(不動産管理業)、「飲食店用の物件問合せが多いので、柏は魅力ある街だと思う。」(不動産賃貸業)、「TX沿線・各駅の市街化地区内の飲食向けテナントの不足を感じる。地元飲食店の出店が可能な箱がSCを除くと少ない。地域性を出すには必要な要素だが、そのような環境にまだなっていない。」(不動産賃貸・管理業)、「本年度下期突入、売上向上を目指す。現在、一過性の案件が多く定着せず先の不安が止まらず。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入高騰

各業種より、「原材料(非鉄)が海外取引所の相場高と円安で、1ヶ月間に10%の上昇」(特殊産業用機械)、「悪天候の影響により、野菜の原価高騰があり、青果は苦戦。在庫を抑え商品回転を高め、経費削減を徹底することを日々努力している。」(その他の各種商品小売業)、「仕入価格が少しづつ値上りしてきていて、特にフルーツ類(イチゴ)が例年より高騰し厳しい」(菓子・パン小売業)との声が寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「天候(雨)により客足が途絶えるようになった。かろうじて前年並み確保。地元の特化した品揃え、販売サービス方法を模索中。」(その他の飲食料品小売業)、「悪天候の日が続いたため野菜が品不足。」(その他の各種商品小売業)との声が寄せられた。

◎人手不足

卸小売業より、「従業員募集の応募減少により予定通りの採用が出来ず、事業の維持・継続の大きなマイナス要因となっている。」(各種食品小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲20.5	▲17.6	▲11.1	▲41.6	±0.0
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
見通し	▲10.0	±0.0	△7.6	▲36.3	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年9月の業況についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が12.8ポイント縮小した。

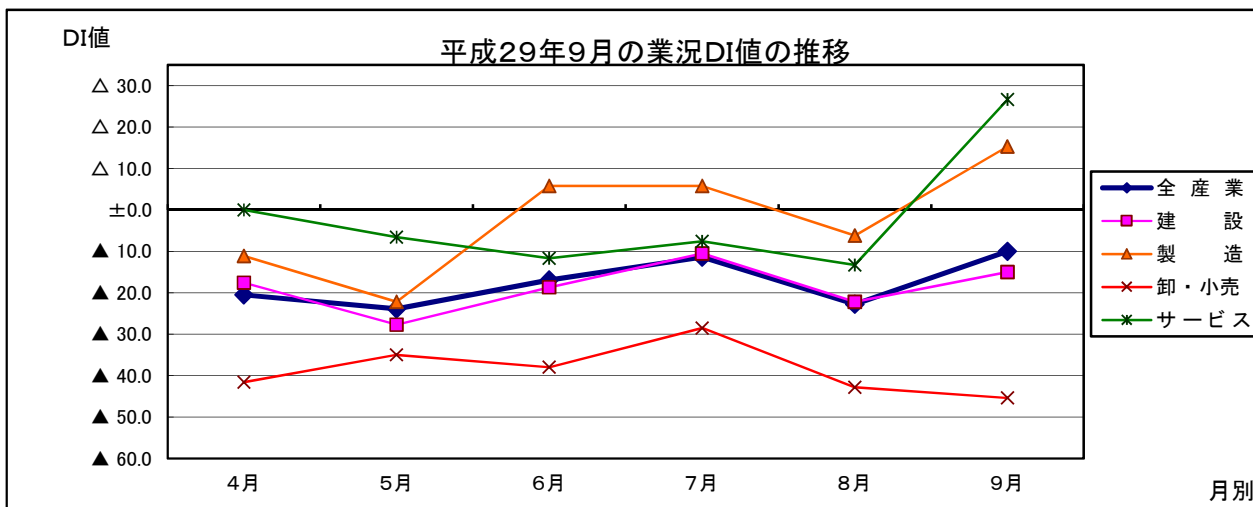
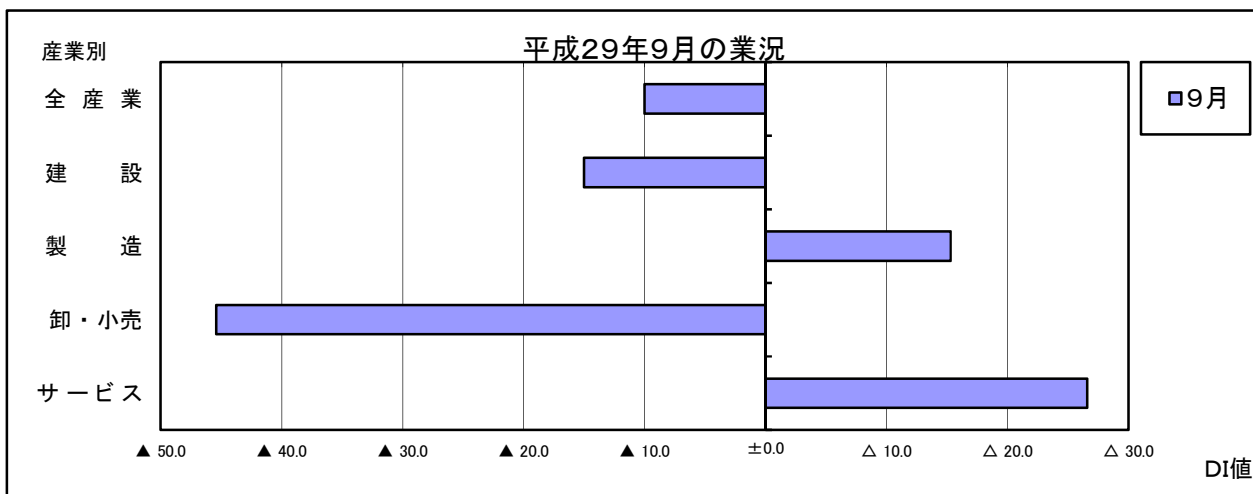
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業△26.6(同▲13.3)、製造業△15.3(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲15.0(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.4(同▲42.8)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.0(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲6.6)、建設業±0.0(同▲5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△7.6(同△12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.3(同▲33.3)である。

平成29年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲20.5	▲23.9	▲16.9	▲11.4	▲22.8	▲10.0	▲10.0(▲10.0)
建設	▲17.6	▲27.7	▲18.7	▲10.5	▲22.2	▲15.0	±0.0(▲5.5)
製造	▲11.1	▲22.2	△5.8	△5.8	▲6.2	△15.3	△7.6(△12.5)
卸・小売	▲41.6	▲35.0	▲38.0	▲28.5	▲42.8	▲45.4	▲36.3(▲33.3)
サービス	±0.0	▲6.6	▲11.7	▲7.6	▲13.3	△26.6	±0.0(▲6.6)



【平成29年9月の売上についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.8(同▲12.8)となり、マイナス幅が10.0ポイント縮小した。

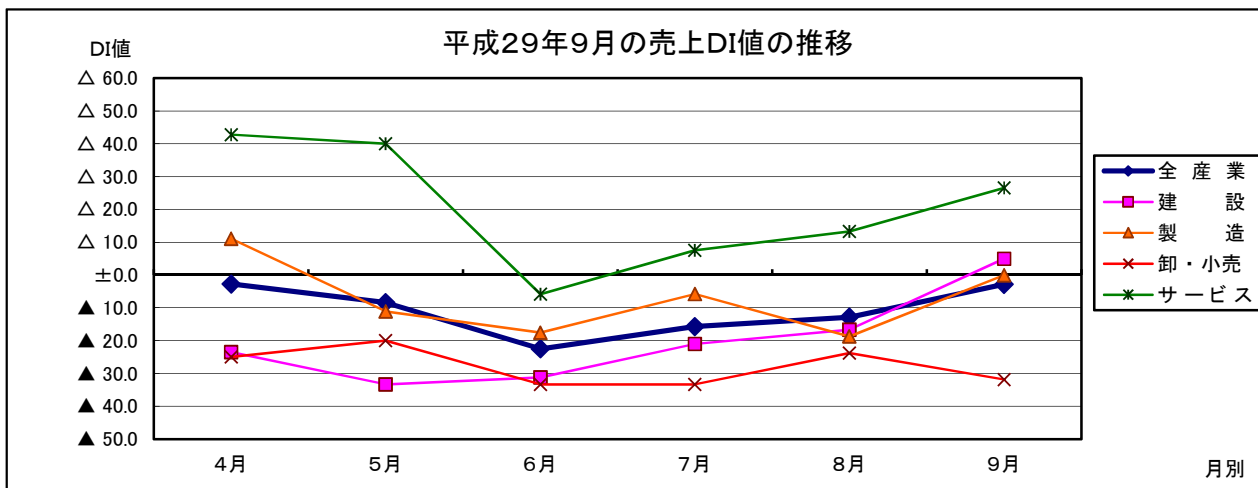
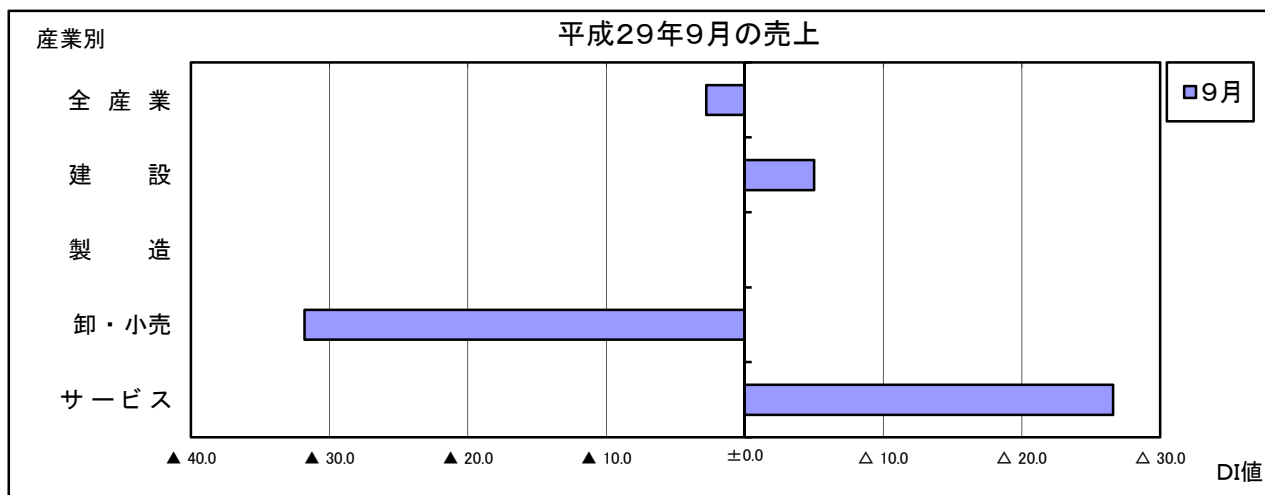
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△26.6(同△13.3)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.0(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲31.8(同▲23.8)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.8(前月水準△4.2)となり、マイナス幅は7.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36.3(同▲42.8)である。変らない見通しの業種は、サービス業△20.0(同△20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△10.0(同△33.3)、製造業△7.6(同△18.7)である。

平成29年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲2.7	▲8.4	▲22.5	▲15.7	▲12.8	▲2.8	▲2.8(△4.2)
建設	▲23.5	▲33.3	▲31.2	▲21.0	▲16.6	△5.0	△10.0(△33.3)
製造	△11.1	▲11.1	▲17.6	▲5.8	▲18.7	±0.0	△7.6(△18.7)
卸・小売	▲25.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲23.8	▲31.8	▲36.3(▲42.8)
サービス	△42.8	△40.0	▲5.8	△7.6	△13.3	△26.6	△20.0(△20.0)



【平成29年9月の採算についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.2(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅は15.8ポイント縮小した。

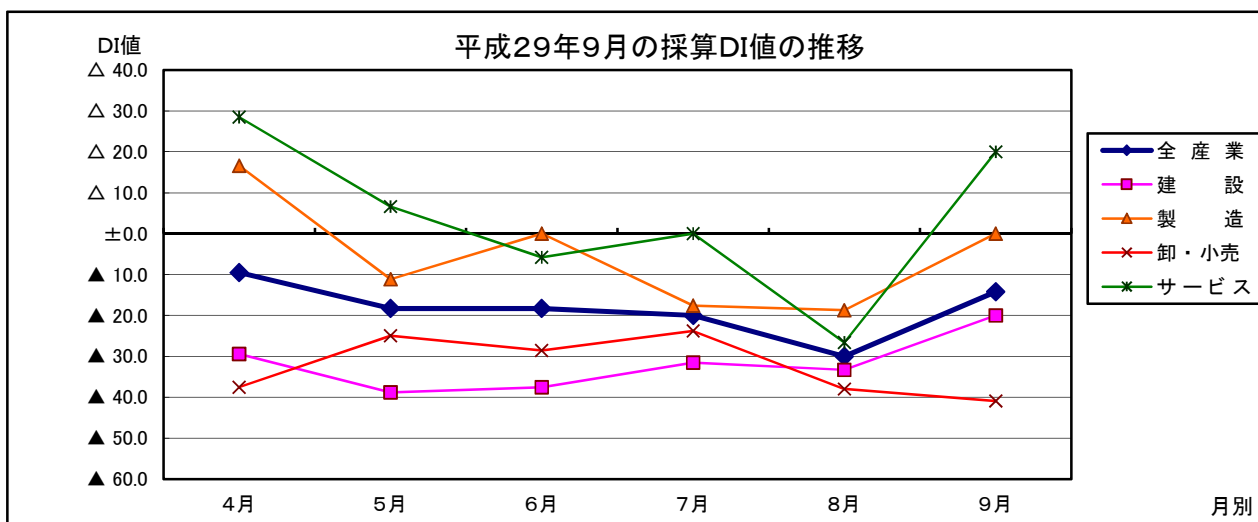
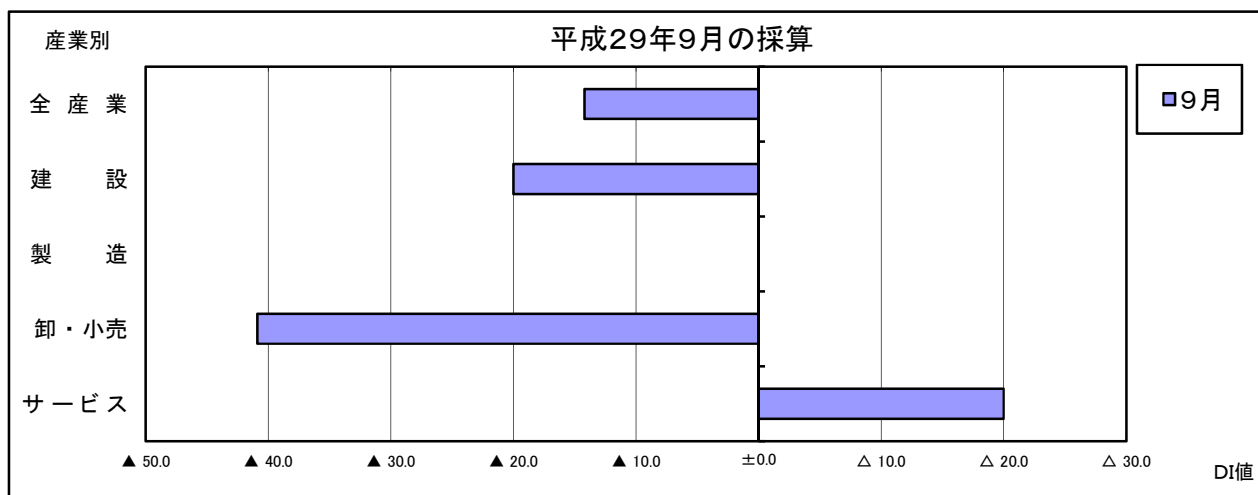
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△20.0(同▲26.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲18.7)、建設業▲20.0(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲40.9(同▲38.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8(前月水準▲8.5)であり、マイナス幅が4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△13.3(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△11.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲7.6(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲45.4(同▲42.8)である。

平成29年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲9.5	▲18.3	▲18.3	▲20.0	▲30.0	▲14.2	▲12.8(▲8.5)
建設	▲29.4	▲38.8	▲37.5	▲31.5	▲33.3	▲20.0	±0.0(△11.1)
製造	△16.6	▲11.1	±0.0	▲17.6	▲18.7	±0.0	▲7.6(△6.2)
卸・小売	▲37.5	▲25.0	▲28.5	▲23.8	▲38.0	▲40.9	▲45.4(▲42.8)
サービス	△28.5	△6.6	▲5.8	±0.0	▲26.6	△20.0	△13.3(±0.0)



【平成29年9月の仕入単価についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.2(前月水準▲21.4)となり、マイナス幅が12.8ポイント拡大した。

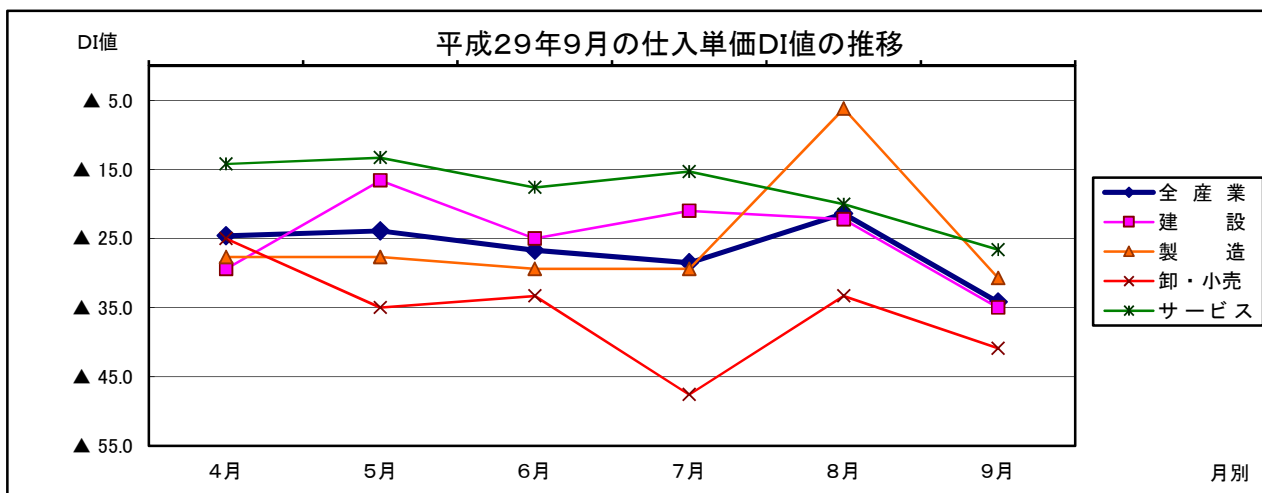
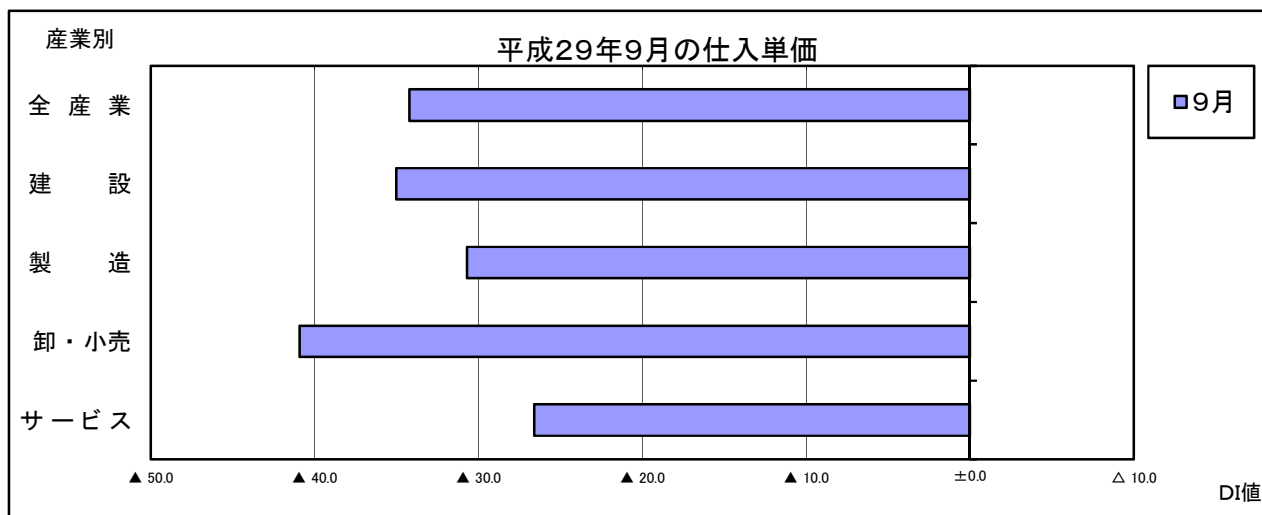
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲30.7(同▲6.2)、建設業▲35.0(同▲22.2)、卸小売業▲40.9(同▲33.3)、サービス業▲26.6(同▲20.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲31.8(同▲38.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.0(同▲12.5)、建設業▲20.0(同▲11.1)、サービス業▲20.0(同▲13.3)である。

平成29年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲24.6	▲23.9	▲26.7	▲28.5	▲21.4	▲34.2	▲24.2(▲20.0)
建設	▲29.4	▲16.6	▲25.0	▲21.0	▲22.2	▲35.0	▲20.0(▲11.1)
製造	▲27.7	▲27.7	▲29.4	▲29.4	▲6.2	▲30.7	▲23.0(▲12.5)
卸・小売	▲25.0	▲35.0	▲33.3	▲47.6	▲33.3	▲40.9	▲31.8(▲38.0)
サービス	▲14.2	▲13.3	▲17.6	▲15.3	▲20.0	▲26.6	▲20.0(▲13.3)



【平成29年9月の従業員についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22.8(前月水準△12.8)となり、プラス幅が10.0ポイント拡大した。

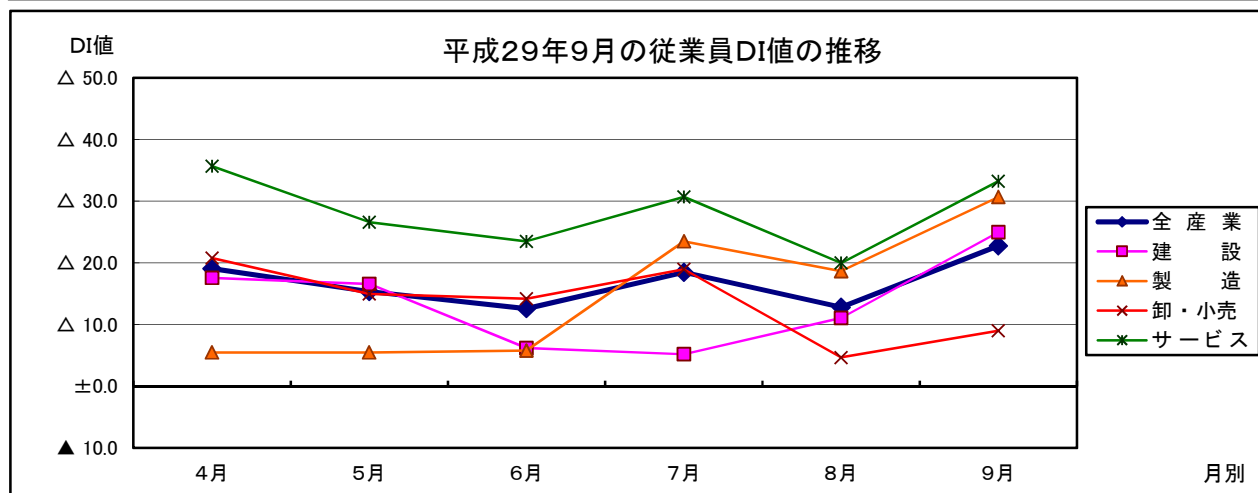
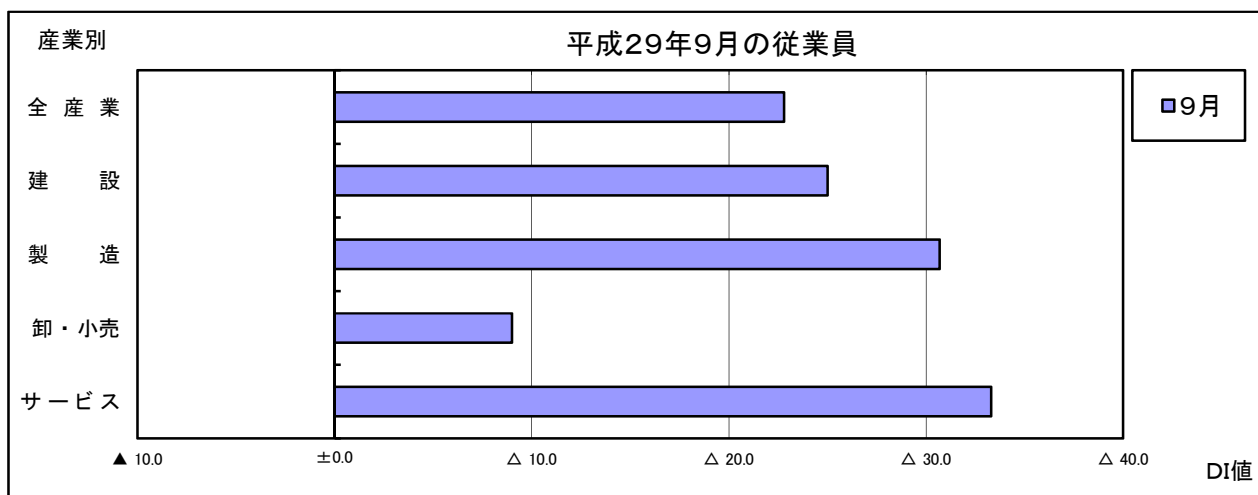
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△25.0(同△11.1)、サービス業△33.3(同△20.0)、製造業△30.7(同△18.7)、卸小売業△9.0(同△4.7)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.5(前月水準△17.1)であり、プラス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△33.3(同△20.0)、製造業△30.7(同△25.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△15.0(同△22.2)、卸小売業△4.5(同△4.7)である。

平成29年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△19.1	△15.4	△12.6	△18.5	△12.8	△22.8	△18.5(△17.1)
建設	△17.6	△16.6	△6.2	△5.2	△11.1	△25.0	△15.0(△22.2)
製造	△5.5	△5.5	△5.8	△23.5	△18.7	△30.7	△30.7(△25.0)
卸・小売	△20.8	△15.0	△14.2	△19.0	△4.7	△9.0	△4.5(△4.7)
サービス	△35.7	△26.6	△23.5	△30.7	△20.0	△33.3	△33.3(△20.0)



【平成29年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.7(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が10.0ポイント縮小した。

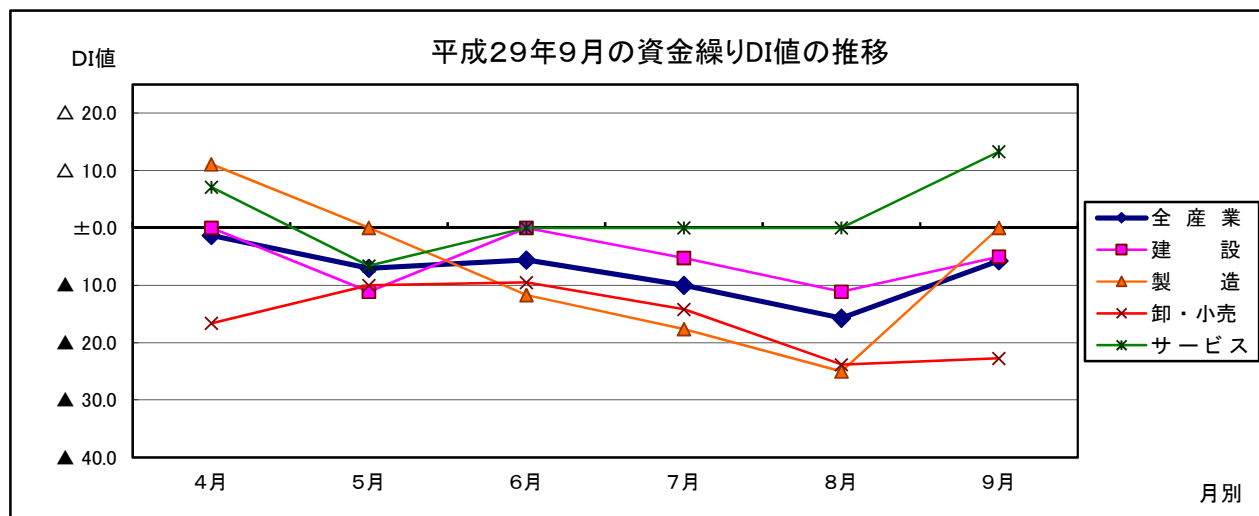
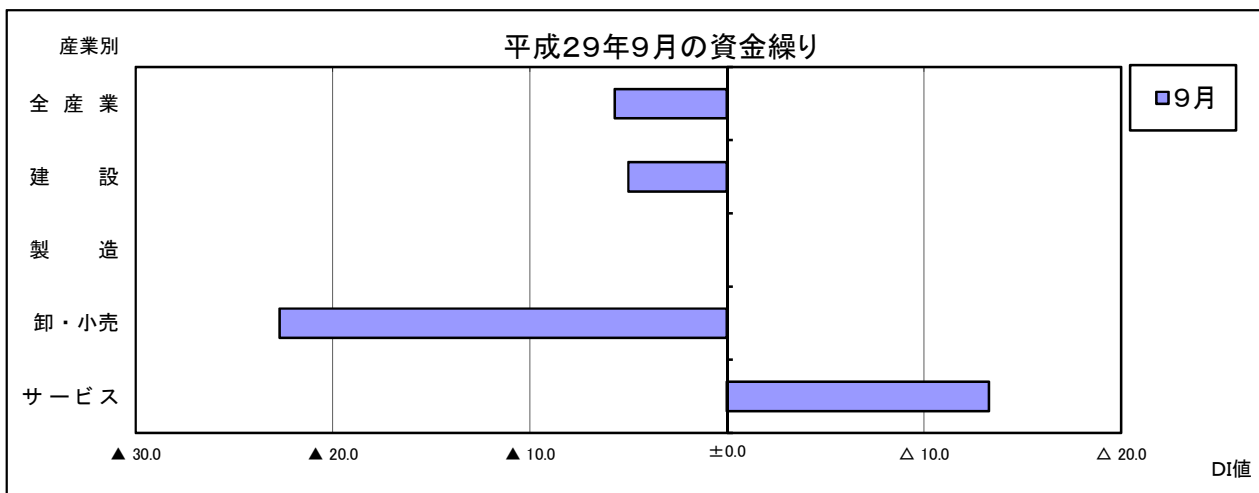
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲25.0)、建設業▲5.0(同▲11.1)、卸小売業▲22.7(同▲23.8)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△10.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲27.2(同▲28.5)である。変わらない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)、製造業±0.0(同±0.0)である。

平成29年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲1.3	▲7.0	▲5.6	▲10.0	▲15.7	▲5.7	▲5.7(▲8.5)
建設	±0.0	▲11.1	±0.0	▲5.2	▲11.1	▲5.0	△10.0(±0.0)
製造	△11.1	±0.0	▲11.7	▲17.6	▲25.0	±0.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲16.6	▲10.0	▲9.5	▲14.2	▲23.8	▲22.7	▲27.2(▲28.5)
サービス	△7.1	▲6.6	±0.0	±0.0	±0.0	△13.3	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 2.8	▲ 2.8	▲ 14.2	▲ 12.8	▲ 34.2	▲ 24.2	△ 22.8	△ 18.5
建設	△ 5.0	△ 10.0	▲ 20.0	±0.0	▲ 35.0	▲ 20.0	△ 25.0	△ 15.0
製造	±0.0	△ 7.6	±0.0	▲ 7.6	▲ 30.7	▲ 23.0	△ 30.7	△ 30.7
卸・小売	▲ 31.8	▲ 36.3	▲ 40.9	▲ 45.4	▲ 40.9	▲ 31.8	△ 9.0	△ 4.5
サービス	△ 26.6	△ 20.0	△ 20.0	△ 13.3	▲ 26.6	▲ 20.0	△ 33.3	△ 33.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 5.7	▲ 5.7
建設	▲ 15.0	±0.0	▲ 5.0	△ 10.0
製造	△ 15.3	△ 7.6	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 45.4	▲ 36.3	▲ 22.7	▲ 27.2
サービス	△ 26.6	±0.0	△ 13.3	±0.0

【平成29年9月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピックス	業種
建設	必要最低限の工事へ移行している感じがする。また、高齢化に伴い自宅の処分に関する相談が増加中。その中で痴呆症発症により処分できない物件が多発中。その対策として家族信託が注目されつつあります。	高齢化相談 家族信託	一般土木建築工事業
	工事の受注は増加したが、予算は減少している。品質保持を考えると一定の積算額を確保したい	受注増加 予算減少 品質保持	電気工事業
	衆院選の動向が気になるのですが、畳屋としてはイ草農家さんが大打撃をうけない政党が政権を任zてくれればいいなと心から願います。	選挙	内装工事業
製造業	原材料(非鉄)が海外取引所の相場高と円安で1ヶ月間に10%の上昇。医療向け建材は停滞ムード。	仕入高騰 建材停滞	特殊産業用機械
	今世紀になっての経済発展は人的労働の評価を低下し、身を粉にして働けど生き残れるもの・生き残れないものの分離が極端になって来ているように思える。	労働評価	印刷業
卸小売	秋冬物の出足は順調、ただしシーズン初めは高額商品の売れ行きが良いのだが、単価は下がっている。特に2万を越すとあきらかに悪い。	季節商品 単価下落	婦人・子供服小売業
	昨年は駅前百貨店の閉店セールがあり売上減少が続いた事もあり、今年9月は全体的に昨年を上回る売上となった状況。悪天候の日が続いたため野菜の品不足と原価高騰があり、青果部門は苦戦。在庫を抑え商品回転を高め、経費削減を徹底することを日々努力している。	前年比増 天候不順 仕入高騰	その他の各種商品小売業
	従業員募集の応募減少により予定通りの採用が出来ず、事業の維持・継続の大きなマイナス要因となっています。	人手不足	各種食料品小売業
	仕入価格が少しづつ値上りしてきていて、特にフルーツ類(イチゴ)が例年より高騰し厳しい。	仕入高騰	菓子・パン小売業
サービス業	柏の葉キャンパス駅西口のららぽーと・大型ショッピングセンター(ヨークマート、D2、マツキヨ、ダイソー)と同じような形態で、おたかの森ショッピングモール先の流山おたかの森駅西口に大型ショッピングセンターオープン(ヤオコー、マツキヨ、ダイソー、フードコート)、そして西口に近日中にホームセンター(セキチュー)オープン予定。セールセールで客足が左右に流れて、真ん中に位置する当店は客足・売上ともかなり厳しい。特に天候(雨)により客足が途絶えるようになった。かろうじて前年並み確保。地元の特化した品揃え、販売サービス方法を模索中。	大型店開店 客足不調 売上減少 天候不順	その他の飲食料品小売業
	夏を過ぎて売買の方も動きが出てきています。長期間空家になっていた物件や相続を受けた物件等資産処分、不動産の現金化等を希望している方が増えています。	不動産好調	不動産管理業
	飲食店用の物件問合せが多いので柏は魅力ある街だと思います。	飲食店用不動産好調	不動産賃貸業
	TX沿線・各駅の市街化地区内の飲食向けテナントの不足を感じます。地元飲食店の出店が可能な箱がSCを除くと少ない。地域性を出すには必要な要素ですが、そのような環境にまだなっていない。	飲食店用不動産不足	不動産賃貸・管理業
	本年度下期突入、売上向上を目指す。現在、一過性の案件が多く定着せず、先の不安が止まらず。	受注一過性 先行き不安	ソフトウェア業

平成29年9月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が5.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.8に対し、「CCI-LOBO」が▲8.5で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、建設業・サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲14.4で柏の方がマイナス幅が0.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.2に対し、「CCI-LOBO」が▲32.5で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△22.8に対し、「CCI-LOBO」が△23.8で柏の方がプラス幅が1.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、製造業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲8.0で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業である。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：平成29年9月13日～20日

調査対象：全国の422商工会議所が3875企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3カ月ぶりに改善。先行きは慎重な見方残り、ほぼ横ばいの動き

9月の全産業合計の業況DIは、▲15.3と、前月から+2.9ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が押し上げ要因となったことに留意が必要。

堅調な建設・設備投資に加え、インバウンドを含む好調な観光需要が全体を牽引した。また、電子部品、自動車関連の生産が引き続き底堅く推移した。他方、人手不足の拡大や、天候不順等による農水産物の出荷減・価格上昇、消費者の低価格志向を指摘する声は依然として多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復が続くものの、そのマインドには依然として鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲15.0（今月比+0.3ポイント）とほぼ横ばいを見込む。輸出や設備投資の堅調な推移、秋の行楽シーズンに伴う観光需要の拡大、消費持ち直しなどへの期待感がうかがえる。他方、最低賃金を含め人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の影響拡大、地政学的リスク、運送費・原材料

費の上昇などを懸念する声は多く、中小企業においては先行きへの慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、小売業、サービス業で改善。その他の2業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間工事、公共工事ともに堅調で売上は改善傾向にある。特に、人手不足に対応するためのICT関連工事が増加している」「(建築工事業)、「鉄鋼を始めとする建設資材価格の高止まりに加え、人手不足に伴う人件費・外注費の増加により、採算が圧迫されている。元請会社に対する価格転嫁交渉を検討せざるを得ない」(職別工事業)

【製造業】「秋の行楽シーズンを控え、今後売上の改善が見込めるが、台風や長雨などの天候不順に伴う原材料の価格上昇により、採算の確保が難しい。諸経費を削減し

て、対応するほかない」(食料品製造業)、「軽自動車などの新車販売が好調なことに加え、欧州、アジアなどへの輸出も増加しているため、取引先からの引き合いが多く、売上は改善傾向が続いている」(自動車部品等製造業)

【卸売業】「鮭の水揚げが前年の半分にも満たず、売上が伸びせない。供給不足により仕入価格は5割程度上昇しており、採算も圧迫されている」(水産物卸売業)、「人手不足が深刻な建設業を中心に、省力化を目的とした設備投資が増加し、売上は改善した」(産業用機械卸売業)

【小売業】「気温の低い日が続き、夏物衣料が低調だったため、早めに商品を秋物に切り替えたところ、9月に入り、例年以上の売上となっている」(衣料品小売業)、「パート・アルバイトの採用・定着に難航しており、人材確保が喫緊の経営課題。さらに10月からの最低賃金の上昇で、採算悪化は避けられず、先行き不安が高まっている」(雑貨等小売業)

【サービス業】「海外のウェブサイトにへの広告掲載などにより、インバウンド需要が増

加し、売上は改善した。他方、生鮮食品価格や運送費の上昇で収益は圧迫されている」(飲食業)、「北朝鮮のミサイル発射計画の影響で、ゲームや韓国への団体旅行のキャンセル・延期などが相次ぎ、売上が落ち込んだ」(旅行業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲17.3	▲10.6	▲11.3	▲18.9	▲33.0	▲12.5
5月	▲16.2	▲15.8	▲12.2	▲12.0	▲36.5	▲5.4
6月	▲14.5	▲14.3	▲8.6	▲8.6	▲32.1	▲8.8
7月	▲16.1	▲13.3	▲9.5	▲11.9	▲33.9	▲11.7
8月	▲18.2	▲14.2	▲6.9	▲17.0	▲36.3	▲17.2
9月	▲15.3	▲7.4	▲10.1	▲19.2	▲31.4	▲10.8
見通し	▲15.0	▲8.7	▲9.0	▲17.9	▲28.0	▲13.2

柏の景気情報

(9月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年9月25日～9月29日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲20.5	▲17.6	▲11.1	▲41.6	± 0.0
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲ 6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△ 5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△ 5.8	▲28.5	▲ 7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲ 6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
見通し	▲10.0	± 0.0	△ 7.6	▲36.3	± 0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはほとんどの業種で改善。先行きは懸念材料を払拭できず横ばいの見通し

9月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が12.8ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲13.3)、製造業▲15.3(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、

建設業▲15.0(同▲2.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.4(同▲42.8)である。

【建設業】からは、「必要最低限の工事へ移行している感じがする。また、高齢化に伴い自宅の処分に関する相談が増加中。その中で痴呆症発症により処分できない物件が多発中。その対策として家族信託が注目されつつある」(一般土木建築工事業)、「工事の受注は増加したが、予算は減少している。品質保持を考えると一定の積算額を確保したい」(電気工事業)、「衆院選の動向が気になるが、豊屋としてはイ草農家が大打撃をうけない政党が政権を任せてくれればいいなと願う」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「秋の葉キャンパス駅西口のららぽーと&大型SC(ヨークマート、ケヨーD2、マツモトキヨシ、ダイソー)と同じような形態で、流山おおたかの森SC先の流山おおたかの森駅西口に大型SC(ヤオコー、マツモトキヨシ、ダイソー、フードコート)がオープン、そして西口に近日中にホームセンター(セキチュー)オープン予定。セール&セールで客足が左右に流れて、真ん中に位置する当店は客足・売上ともかなり厳しい」(その他の飲食料品小売業)、「夏の過ぎて売買の方も動きが出てきている。長期間空家になっていた物件や相続を受けた物件等資産処分、不動産の現金化等を希望している方が増えている」(不動産管理業)、「飲食店用の物件問合せが多

いので、柏は魅力ある街だと思おう」(不動産賃貸業)、「TX沿線・各駅の市街化地区内の飲食向けテナントの不足を感じる。地元飲食店の出店が可能な箱がSCを除くと少ない。地域性を出すには必要な要素だが、そのような環境にまだなっていない」(不動産賃貸・管理業)、「本年度下期突入、売上向上を目指す。現在、一過性の案件が多く定着せず先の不安が止まらず」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

9月の景気キーワード

◎仕入高騰

各業種より、「原材料(非鉄)が海外取引所の相場高と円安で、1ヶ月間に10%の上昇」(特殊産業用機械)、「悪天候の影響により、野菜の原価高騰があり、青果は苦戦。在庫を抑え商品回転を高め、経費削減を徹底すること」(その他の各種商品小売業)、「仕入価格が少しづつ値上りしてきていて、特にフルーツ類(イチゴ)が例年より高騰し厳しい」(菓子・パン小売業)との声が寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「天候(雨)により客足が途絶えるよう

になった。かろうじて前年並み確保。地元の特化した品揃え、販売サービス方法を模索中」(その他の飲食料品小売業)、「悪天候の日が続いたため野菜が品不足」(その他の各種商品小売業)との声が寄せられた。

◎人手不足

卸小売業より、「従業員募集の応募減少により予定通りの採用が出来ず、事業の維持・継続の大きなマイナス要因となっている」(各種食料品小売業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-TOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が5.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。